洪水災害に関する主な防災気象情報

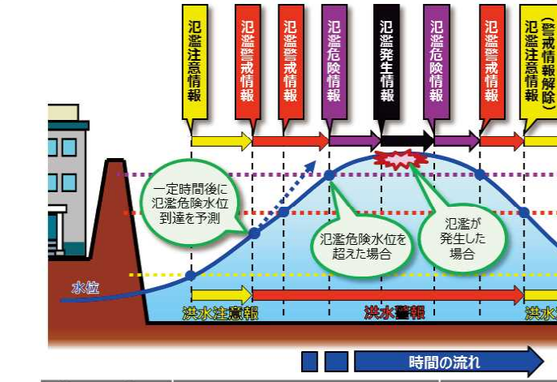
洪水警報
洪水注意報

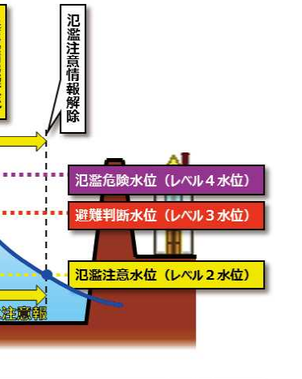
洪水警報（警戒レベル３相当）、洪水注意報（警戒レベル２）は、河川の上流域での降雨や融雪によって増水や氾濫による洪水災害となるおそれがあると予想したときに発表します。実際にどの河川のどの場所で洪水災害発生の危険度が高まっているかを**「洪水キキクル（洪水警報の危険度分布）」**で確認するとともに、水位計や監視カメラ等で現地情報も確認してください。

洪水キキクル（洪水警報の危険度分布）

洪水キキクル（洪水警報の危険度分布）は、指定河川洪水予報の発表対象でない中小河川（水位周知河川、その他河川）の洪水災害発生の危険度の高まりを、地図上で概ね1kmごとに5段階に色分けして示す情報です。常時10分毎に更新しており、洪水警報等が発表されたときに、どこで危険度が高まっているかを把握することができます。危険度の急上昇にも対処するため、危険度の判定には3時間先の未来までの流域雨量指数の予測値を用いています。特に**「非常に危険」（うす紫）**（警戒レベル４相当）が出現しているときに一定の水位を越えたら速やかに避難を開始してください。この**「非常に危険」（うす紫）**は、気象庁ホームページで確認できるほか、各事業者が実施するメールやスマホアプリによる通知サービスでプッシュ型の通知を受信することもできます。

洪水キキクル（洪水警報の危険度分布）





※ 大河川（洪水予報河川）についても、発表中の指定河川洪水予報に応じて5段階に色分けして、中小河川よりも太く表示しています。

指定河川洪水予報

大河川（洪水予報河川）の氾濫等のおそれについて、気象庁は国土交通省又は都道府県の機関と共同で、水位等を示した洪水の予報を行っており、これを指定河川洪水予報と呼んでいます。

発表する情報は、氾濫注意情報、氾濫警戒情報、氾濫危険情報、氾濫発生情報の４つがあり、河川名を付して「○○川氾濫注意情報」「△△川氾濫警戒情報」のように発表します。特に**「氾濫危険情報」**（警戒レベル４相当）が発表された場合には、河川がいつ氾濫してもおかしくない非常に危険な状況となっていますので、命を守るための避難を開始してください。

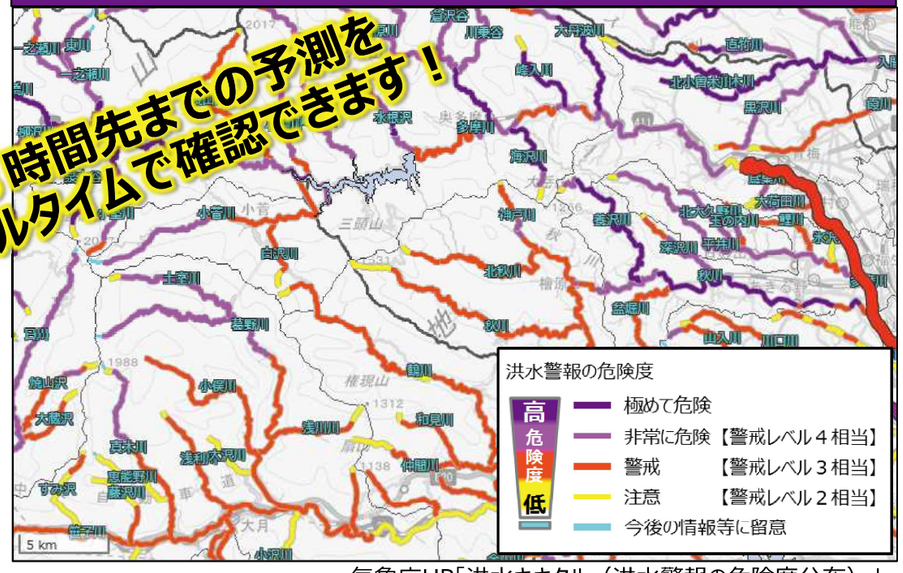
洪水予報の標題（種類）	発表基準	市町村・住民に求める行動の段階	相当する警戒レベル
○○川氾濫発生情報（洪水警報）	氾濫の発生（氾濫水の予報※）	氾濫水への警戒を求める段階	５相当
○○川氾濫危険情報（洪水警報）	氾濫危険水位（レベル４水位）に到達	いつ氾濫してもおかしくない状態 避難等の氾濫発生に対する対応を求める段階	４相当
○○川氾濫警戒情報（洪水警報）	一定時間後に氾濫危険水位（レベル４水位）に到達が見込まれる場合、あるいは避難判断水位（レベル３水位）に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合	避難準備などの氾濫発生に対する警戒を求める段階	３相当
○○川氾濫注意情報（洪水注意報）	氾濫注意水位（レベル２水位）に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合	氾濫の発生に対する注意を求める段階	２相当

気象庁 Japan Meteorological Agency
〒105-8431　東京都港区虎ノ門3-6-9
TEL：03-6758-3900（代表）
FAX：03-3434-9085（耳の不自由な方向け）
https://www.jma.go.jp/

このリーフレットは印刷用の紙へリサイクルできます。令和３年３月

洪水キキクルの活用
（洪水警報の危険度分布）
～中小河川の洪水災害から命を守るために～

洪水キキクル（洪水警報の危険度分布）
（令和元年10月12日16時00分）



気象庁HP「洪水キキクル（洪水警報の危険度分布）」
https://www.jma.go.jp/bosai/risk/#elements:flood/

妙見川の被害状況（7月8日国土地理院撮影）

赤谷川の被害状況（7月7日国土地理院撮影）

出典：国土地理院ホームページ（平成29年７月九州北部豪雨に関する情報）

これまでの経験から命に危険を及ぼすとまでは考えていなかった中小河川で上の写真のように大きな被害が発生しました。

九州北部豪雨のときには、写真のように谷全体が川のようになってしまったのね。

気象庁 Japan Meteorological Agency

中小河川は何に気をつけないといけないの？

中小河川における洪水災害のリスク

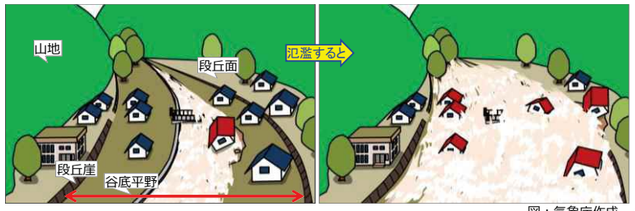
中小河川（水位周知河川、その他河川）は、上流域に降った雨が河川に集まるまでの時間が短く、短時間のうちに急激な水位上昇が起こりやすい特徴があり、逃げ遅れることのないよう注意が必要です。

○山間部を流れる中小河川（山地河川）の洪水災害

・山地河川は、勾配が急で流れが速くなりやすく、氾濫する前から**水流によって川岸が削られて**家屋が押し流されるおそれがあります。

・氾濫すると、幅の狭い**谷底平野全体に破壊力の大きな氾濫流**が生じ、家屋が押し流されるおそれがあります。

・上流から流されてきた土砂や流木が川底に溜まって氾濫しやすくなる場合があります。

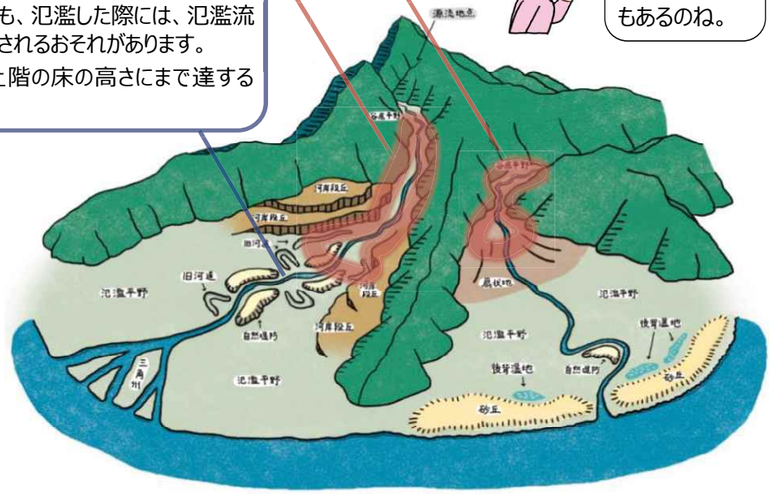


図：気象庁作成

○平野部を流れる中小河川の洪水災害

・平野部を流れる中小河川であっても、氾濫した際には、氾濫流によって河川周辺の家屋が押し流されるおそれがあります。

・場所によっては浸水の深さが最上階の床の高さにまで達するおそれがあります。



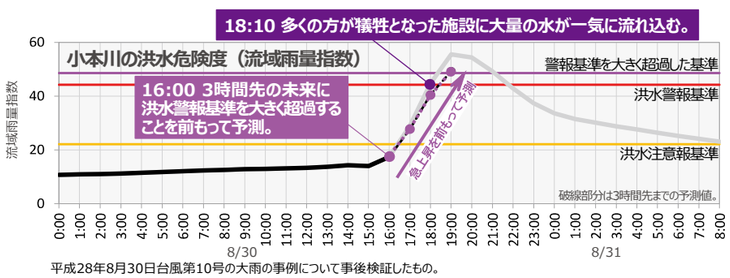
出典：国土地理院ホームページ（河川地形の全体模式図に加筆）

※中小河川の洪水災害で浸水が想定される区域は、洪水ハザードマップに表示されていることがありますので、市町村のホームページ等で洪水ハザードマップを確認してください。ただし、洪水ハザードマップに明示されている浸水想定区域以外でも洪水災害で命に危険が及ぶケースも過去に発生していますので、上記の点に注意して命を守る行動をとってください。

中小河川における洪水災害への対応策

中小河川は、上流域で雨が降ったときに、短時間のうちに**急激な水位上昇**が起こりやすいという特徴があり、避難が間に合わないケースも生じています。

このため、水位計や監視カメラ等による現地情報に加え、水位上昇の見込みに関する予測情報（**洪水キキクル（洪水警報の危険度分布）**等）も合わせて活用することで、実際に洪水危険度が急上昇する前に、いち早く危険を覚知して早めに避難を開始することが大変重要です。



平成28年8月30日台風第10号の大雨の事例について事後検証したもの。

洪水キキクル（洪水警報の危険度分布）の色に応じた住民等の行動の例と警戒レベル

色が持つ意味	住民等の行動の例※1・2	相当する警戒レベル
極めて危険	流域雨量指数の実況値が過去の重大な洪水災害発生時に匹敵する値にすでに到達。重大な洪水災害が**すでに発生**している可能性が高い極めて危険な状況。	—
	広島市安芸区矢野川で発生した洪水災害（画像：梶岡博氏提供）	
非常に危険	中小河川（水位周知河川、その他河川）がさらに増水し、今後氾濫し、重大な洪水災害が発生する可能性が高い。 **水位が一定の水位を超えている場合には速やかに避難を開始する。**※3	**4** 相当
警戒（警報級）	**水位が一定の水位を超えている場合には、避難の準備が整い次第、避難を開始する。**※4 高齢者は速やかに避難を開始する。	**3** 相当
注意（注意報級）	ハザードマップ等により避難行動を確認する。 今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に注意する。	**2** 相当
今後の情報等に留意	今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意する。	―

※1 洪水キキクル（洪水警報の危険度分布）に関わらず、自治体から避難指示等が発令された場合には速やかに避難行動をとってください。
※2 洪水予報河川の外水氾濫については、洪水キキクル（洪水警報の危険度分布）ではなく、河川管理者と気象台が共同で発表している指定河川洪水予報等を踏まえて避難情報が発令されますので、それらに留意し、適切な避難行動を心がけてください。
※3 河川の水位情報は「川の防災情報」で確認してください。水位を観測していない河川では、早めの避難の観点から、速やかに避難を開始することが重要です。
※4 河川の水位情報は「川の防災情報」で確認してください。水位を観測していない河川では、避難の準備をして早めの避難を心がけてください。

「極めて危険」（濃い紫）が出現した段階では、**すでに氾濫**した水により道路冠水等が発生し、**避難が困難**となっているおそれがあります。このため、遅くとも**「非常に危険」（うす紫）**が出現した時点で、水位計や監視カメラ等で河川の現況も確認した上で、**速やかに避難開始**について自ら判断することが重要です。また、洪水キキクル（洪水警報の危険度分布）に関わらず、市町村から警戒レベル４や警戒レベル３の避難情報が発令された際には速やかに避難行動をとってください。